

聖路加看護学会ニュースレター

No.40

● 第22回聖路加看護学会学術大会の事前参加登録を！

9月16日(土)の大会開催にむけて、準備が着々と進んでいます。

まだ参加登録がお済みでない方は、ぜひ事前登録をご利用ください。

たくさんの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

当日参加よりも
参加費が
お安くなります

	事前参加申込 (2017年8/31(木)まで)	当日参加申込 (2017年9月1日(金)以降)
学会員	5,000円	6,000円
非学会員	6,000円	7,000円
学生	3,000円 当日 学生証をご提示ください	

事前参加申し込みの方法

STEP1

下記の参加登録ページよりお申し込みください。

<http://slnr22.umin.jp/PreParticipation.html>

STEP2

参加費を2017年**8月31日(木)までに**郵便振込みをしてください

郵便振替口座： 00190-5-324392

フリガナ： ダイニジュウニカイセイロカカンゴガツカイガクジュ

加入者名： 第22回聖路加看護学会学術大会

ご注意
ください

- ・聖路加看護学会の入会金・年会費の振込先は、上記とは異なります。
- ・入会手続きは、<http://slnr.umin.jp/join.html> より行ってください。
- ・会員番号がわからない方は、聖路加看護学会事務局 slnr@slcn.ac.jpまでお問い合わせください。

会費納入のお願い

会費納入がお済みでない方は下記口座にお振込みをお願いします。

振込先： 郵便振替口座：00100-8-670371

加入者名： 聖路加看護学会

会計年度： 4月1日～翌年3月31日まで



● 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 採択者報告

2016年度の聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金「研究助成」は2名の方が採択され、第21回学術大会にて、その成果が発表されました。本号では、改めて採択者の皆さんに、学術大会の報告を含め、研究の動機、実施において難しかった点、成果を得たときの喜びなどをご報告いただきました。

大学院生(修士課程)の自学力とチームを作る力の促進を目指したフィジカルアセスメント科目におけるTeam Based Learningの有効性

大久保暢子(聖路加国際大学大学院 看護学研究科)

共同研究者 三浦友理子、倉岡有美子、加藤木真史(聖路加国際大学大学院 看護学研究科)、松本直子(聖路加国際大学学術情報センター)、島田伊津子(聖路加国際病院クリニカルナースエドゥケーター)

看護実践科学研究助成基金を得て、「大学院生(修士課程)の自学力とチームを作る力の促進を目指したフィジカルアセスメント科目におけるTeam Based Learningの有効性」の研究を行いました。これは本学大学院科目「フィジカルアセスメント」にアクティブラーニングを導入することを検討し、2014年からTeam Based Learning(以下TBL)を開始したため、その評価をする目的がありました。大学院フィジカルアセスメントでTBLを運営し、研究的評価のために「TBLランチ」と銘打って共同研究者と話し合いを重ねました。本基金を受けられたことで、量的な評価研究に加えて、質的研究での評価も行うことができました。以下に、今回の研究概要をご報告致します。研究デザインは、フォーカス・グループインタビュー法で、TBL実施後、インタビューガイドでの半構造化面接を行いました。対象は、本学大学院看護学研究科修士課程に在籍する大学院生であり、修士課程科目フィジカルアセスメントを履修した学生で研究同意が得られた8名でした。インタビュー項目は、「自学力」と「チームを作る力」に関する15項目で、分析は逐語録をもとに内容のカテゴリー化を行いました。インタビューから、自学力は「集中力」、「臨床と関連付けて理解する力」、「自分なりの思考を工夫する力」が強化され、チームを作る力は、「思いやりと客観的な判断の両方を兼ね合わせる力」、「臨床経験、体験の異なる者を理解する力」、「他者の知識から学ぼうとする力」が培われており、これらがTBLの有効性に関係していると考えました。先行の量的研究にて、本科目でのTBL実施は学生の満足度が高く、チームを作る力に有効ですが、自学力への有効性は不明で、実技習得には影響がないことが分かっていました。しかし、本研究からTBLは自学力にも有効であることが分かり、今後、本科目では実技習得のためにTBL以外の教授方法を組み合わせる必要があると推測できました。これらの評価を反映して、現在のより精錬されたフィジカルアセスメント科目が運営出来ています。本学会の研究助成基金を頂きましたことに心よりお礼申し上げます。



高齢慢性疾患患者におけるテレナーシングのソーシャルサポートへの影響

金盛琢也(聖路加国際大学大学院 看護学研究科)

共同研究者 亀井智子(聖路加国際大学大学院 看護学研究科)、山本由子(武蔵野大学 人間科学部)

テレナーシングとは、情報通信技術を看護に利用し、遠隔地の看護師が患者のアセスメントや看護指導、およびメンタリングを提供する看護方法を言います。近年ICTを活用した健康管理が注目を集めています。本邦でも健康機器を取り扱う企業を中心に、血圧や運動療法の管理にスマートフォンなどのICTを用いた取り組みが報告されています。一方で、糖尿病やCOPDなどの慢性疾患をもつ高齢者の健康管理では、高齢者自身で心身データを振り返るだけでなく、適宜看護師等の専門職による指導を受けることが重要です。これらの疾患をもつ高齢者が健康行動を維持するためには、家族、友人、専門職などの他者が適時に助言し、共感し、元気づけるなどの支援を行うことが必要であると考えられます。外来等における対面の看護指導が、高齢慢性疾患患者の周囲の人から受ける支援(ソーシャルサポート)の向上に有効であることは報告されていますが、テレナーシングが高齢慢性疾患患者のソーシャルサポートにどのように影響しているかは明らかになっていませんでした。そこで、2015年度に聖路加看護学会看護実践科学研究助成をいただき研究を行いました。

本研究では、テレナーシングの開始時と終了時で高齢慢性疾患患者のソーシャルサポートがどのように変化するか、量的データと質的データの分析を行いました。高齢慢性疾患患者はテレナーシングを通して看護師や家族に主体的に相談し、周りの人から助言や励ましなどの支援を受けており、開始時に比べ終了時にソーシャルサポート尺度の得点が高いことが示されました。また周囲の人からの励ましなどにより療養の主体性が高まり、テレナーシングが高齢慢性疾患患者の健康行動の維持に肯定的な影響を与える可能性が示唆されました。最後になりましたが、研究助成をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

